



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 早川清志
 題字 島崎洋路

第14回森林塾報告 テーマ「炭焼き」
『中は赤、外はもくもく白や青』

放射冷却による寒さが増してきた冬の初めの朝、いつもの怪しい集団が、治外法権の小屋裏の穴ぼこを取り囲んでいる。そう今日は、「炭焼き」の日。いやいや、炭焼き



塾生代表、上原委員長いざ、点火

という大義名分を掲げた「蕎麦打ち」、「忘年会」の日?。まずは、保科先生・椎原講師ご指導による、簡単手作りドラム缶窯の炭焼き。お尻下がりになり整地して煙突と一斗缶の

準備です。「んごご」とまきわりくんで割っちゃいましょうか。いやいや、やっぱり、よきで「ばこん」といつちやいましょう。こんな会話があったかどうか定かではないけれど、



焚き口はどっち? じゃあお尻は・・・

て、ブロックを積み上げたら、本格的な土窯に見えるように全体に土をかぶせてしまします。点火して、煙突から白い煙がもくもく出てきたら、今度は、移動式炭化口ケット



「んごご〜」

で束ねた柱を立てて、その周りを新で埋める。二段目も三段めも。てっぺんによく乾燥した短い薪を山と積み、松葉を乗つけて、いざ点火。拍手を贈る皆の心はどこへやら。まだ、蓋して、煙突つけな



ストレス解消に安全、簡単パイルドライバー

残った数名の男たちによって、すでに一升瓶の封が切られていたのでありました。そして、いよいよ裏メインイベント。小屋内では、椎原・森講師の蕎麦打ち。外では、森・森講師の蓬餅搗き。蕎麦打ちの水回しが命。餅搗きは蒸した米が冷めないうちに搗かないと。そう、搗き手と返し手の呼吸の妙技。蕎麦打ち会場では、次々と挑戦者が現れる一方、和室の車座の中央



手をはなしても立ってくれるかなあ〜

きやなんだけど・・・。一応、表メインイベントの段取り終了。このとき小屋裏では、火の番を口実にドラム缶窯のところに残った数名の男たちによって、すでに一升瓶の封が切られていたのでありました。そして、いよいよ裏メインイベント。小屋内では、椎原・森講師の蕎麦打ち。外では、森・森講師の蓬餅搗き。蕎麦打ちの水回しが命。餅搗きは蒸した米が冷めないうちに搗かないと。そう、搗き手と返し手の呼吸の妙技。蕎麦打ち会場では、次々と挑戦者が現れる一方、和室の車座の中央

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。保科先生のあいさつの後、イントラ椎原によるドラム缶窯の**炭焼き**

第14回 12月1日(土)
今回の内容

今回は、いなかや野沢菜の漬物が供されているのでした。餅搗き会場でもできたての餅を持った余りの手には紙コップが握られ、コボコボという音がそこかしこに。
 こうして一人・二人とできあがっていき、餃子奉行や鍋奉行が指名された午後四時頃には、すでに寝転がっている人が、餃子や鍋が出来上がった頃には、はやくも壊れてしまった人が、この後も松本講師主催のたこやき教室が開かれるなど、今年最後の森林塾の夜はふけていくのでした。



「とりやあああ~!!!」



プロはばこばこ一気に薪割り、良い子は真似しないでね

手順説明。

すぐに仕込み開始。まずドラムカンがすっぽり入る穴を掘り、やや向こう下がりに設置。(手前の焚き口が少し高くなる)煙突を差す。鉄筋を組んだ口ストルを敷き、あらかじめ八十センチに玉切った割ったヒノキの炭材をびっしり詰め込む。焚き口に一斗缶をかませドラムカンを土で覆う。

この頃ちよつと遅刻の島崎先生登場。あいさつ。先生は今朝早起きして講演先の岐阜県萩原町から戻って来られました。

9時30分 松葉の焚き付けで着火。初めは小割りの焚き付けを押し込みすぎでうまく燃えなかったが、保科先生が少しいじったら即、順調に燃え始める。あとは窯止めまで焚き口の火を絶やさずに燃やすのみ。

9時40分 ステンレスの移

動式炭化炉用の炭材を切り割りし、仕込み開始。こちらは六十センチの長さで二段積み。中心には粗朶で煙道を作る。薪割り

は塩田名人を中心にしたよきチーム、長坂さんや栗林さんの『まきわりくん』チーム、スウェーデン製パイルドライバー方式薪割り器は上原、藤野親子チームの三種類に分かれ、短時間で片付いた。

この頃森一家はもち米を蒸し始める。材料、かまど、臼杵、薪等一式持参でもちつきの用意。楽しみ。

同じ頃ドラムカンの煙突先には燻製材料の豚ばら肉、とりも肉がつるされる。(このことがドラムカンの木酢液を台無しにしてしまいました。ごめんなさい)

10時50分 ステンレス窯の仕込み終了。八期生を代表して上原委員長による着火式。焚き付けの材を

12時30分 威勢の良い杵の音が止み、森さんちの草もちが完成。あんころも黄な粉もとても美味しい。そばの第一弾も茹で始め、なんだかすつかり年の瀬押し詰まった気分だなあ。

島崎先生のたつてのご要望でお酒解禁。やはりそばには日本酒。このあたりで研修を終了、宴会に突入となる。そばも美味。新そばの挽きたての粉で打ったそばはへたな蕎麦屋さんよりもずっと美味しい。そばつゆは上原さんが持参してくれた地物。薬味にはもちろん保科先生作の辛味大根も。

松本さんが一式持参でたこ焼きを作ってくれる。米どころ佐藤さんのまぼろしの酒はじめ上原さん、栗林さん、塩田さん、藤本さん、酒だらけ。河原

少しずつ追加してこちらも後は火の番のみ。11時 椎原さん、菅さんを講師にそば打ち講習が始まりました。丁寧、親切なご指導でしたが完成が待ち遠しい。

さんは白州の山ほどの濃厚たまごと大根。松ノ元さんは地元のリンゴ、逸見さんはご存じ岡山ままかり。松本さんミカン。保科先生の野沢菜浅漬け。たくさんの差し入れありがとうございました。ごちそうさまでした。(まだあったけど覚えきれなくてごめんなさい)お酒も鍋も餃子も燻製もたこ焼きもとても美味でした。

さて、ドラムカンは順調に推移し、途中イントラ椎原や大野が窯口を絞るなどの面倒を見ていてくれていました。

9時30分 いがらつぽい臭いがし、煙が透明になってきた。ドラムカンの窯の窯止め。煙突にマッチ棒をかざして十七秒で火がつけば窯止めだ」と保科先生がおっしゃっていました。

10時 ステンレス窯も順調に煙が出つつ、最後の一本の煙突以外は

塞いでいましたが、煙も少なく、口元が真っ赤になつてきたので仮眠を始めた島崎先生の許可を得ずに窯止め。

8時30分 昨夜二時過ぎまではしゃいでいた面々も起こされ窯開け、出炭。まずはステンレス窯。蓋を開けると妙にたくさんのかさだな、生焼けかなと心配したのですが大方炭化していました。収炭量は5.6kg。まあまあ量のでした。木酢液は一升半。窯止めまでの時間が短かったせいかな今までより二〜三割少ない。

続いてドラムカンの窯。こちらはほぼ完璧に炭化していました。収炭量は5.6kg。ともに成功。

9時30分 島崎先生のあいさつ、終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/上原さん、奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(誠)さん、島田さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、久部さん、藤野さん、逸見さん、松永さん、松ノ元さん、松本さん、桃澤さん、森さん夫妻、三浦麟太郎さん、山浦さん、池田さん、岡田さん、塩田さん、則竹さん、芳賀さん、河原さん、藤本さん

講師/保科先生、島崎先生
スタッフ/大野、椎原、平林、坂野、早川



世間より一足早く正月気分



ドラム缶窯の成果はいかに



次回の予定
第15回 3月2日(土)
きのこの菌うち

13年度の最終回になります。8時30分 島崎先生の山小屋に集合。シイタケ、ナメコなどの菌をしてみましよう。原木に種駒を打ったり、オカ菌を塗ったりという作業です。

この時期降雪、凍結の可能性があります。車の場合、滑り止めが必要かと思えます。道路状況等、事務局にお問い合わせください。



リレー通信

「この場所から」

宮崎 宏子

森林塾の皆様、一年間お疲れ様でした。(ってまだ終わっていませんが)

私も二年間の伊那生活、そろそろ卒業です。林学科での学生時代、広島県林務部時代、森林たくみ塾での木工修行時代と、ずっと森林、林業に関しての問題意識を持ち続け、問題解決のためにどうす



ればいいのか、何が自分に足りないのか考えてきました。その最終仕上げは、島崎先生の下で現場を学ぶことでした。ここに来てやっと、これまでの『どうすればいいだろう』がかなり具体的に『ああしよう、こうしよう』に変化してきたので、それを実行すべく地元広島の森林組合に入ることになりました。

これまで歩んできた中で、意識してきた事の一つに、人に何かを伝える事の難しさがあります。森林塾では始どない事です。これまで普通は、我々林業関係者が山の現状を訴えてもなかなか届かず、かえって反発されて、疲れてしまう場合も多く、林業の話をするについ暗い話になってしまいがちでした。そういう中で特に若い人の間では、こんなことでは林業の世界に来る人も来ないと、よく『暗い話はしたくないよな』と言っていました。私も、県を辞める時、林業を魅力的な職業にしよう、そしてそれを人に伝えようと

考えていました。それには、自分自身が、心底林業に魅力を感じていなければいけないだろう、と思っていました。

森林たくみ塾で、作品を通して何かを伝える経験をし、森林塾でスタッフとして、塾生の皆さんと接する中で、確かに、当初から思っていた通り、情熱の有無はあからさまに伝える事に影響するのだと感じました。

ただ、最近思うのは、自分がどんなに魅力を感じている事でも、伝えにくいものもあるのだということ。多分一つは、魅力を感じるまで、時間のかかるもの、それと、全く個人的な趣味の違いがあるものです。

さてそれで、私個人が森林、林業に対して、現場を知らなかった昔も現場をかじった今も変わらず、魅力を感じている事がありますが、森林塾のメニューの中では、あまり教える事がなかったのので少々寂しく思っています。それと、作業そのものを楽しんでる皆さんを見ていて、私の林業に対する興味というのは、一般的なものにならないのかもと思いついています。私は 木が生きているときの個性、材になってからの個性を単純に面白いと感じ、また、その個性的な木の集団である森林のダイナミックな動

態に興味をそそられ、それらを理解した上で、その他地理的、社会的、人的要素などを考えて、全体として保続を図っていきけるよう施策方針を決めていく林業というものにものすごく魅力を感じます。

山を見るときは常に、どうしてこの木はここにこういう姿で生きているのか、この林分はどうしてこういう状態にあるのか、これから先どう変化していくのか、どう手を入れればどうなるのか考えます。それが面白いのです。現場をやるようになってからは、どう手を入れれば将来どういう作業内容になってくるのかも、ある程度考えられるようになりました。

これら、私が林業を面白いと感じるのは、相手が生き物であるということが大きいと思います。植物の生き方というものは、それぞれ個性的で、感心する事が多々あります。最近、ニュートンの『植物の世界』が、再編集されて出版されました。この本は、

大学時代、卒論として、ハマゴウという木本植物の生存戦略を明らかにするという研究テーマを与えられた頃に、丁度出版されました。それまで、生物は大好きでしたが、植物は一見動かないので、生き物であるという実感がなかつた。しかし、フィールドで、あるい

は実験室で、生長の仕方、光合成、蒸散、水分特性、葉の展開等のデータを長期間取り続け、解析する内に、擬人的言い方ですが、植物が環境の変化の中で、植物であるという制約の中で、如何に工夫を凝らして適応して生きているかという事が見えてきて、植物が生き物であるという実感が持てるようになりました。

それから、本当に自分の専門が楽しくなったと言えます。その研究生活時代、植物をどう見るか、植物を見る楽しみ方を分かり易く教えてくれたのがこの本でした。もちろん植物生理学、森林生態学等の専門書、論文も面白いのですが、この本は植物を絞って、植物毎に生態をまとめてある事と、何しろ植物画が美しいため、読むのが楽しい一般向けの本でした。ところが、人に貸したりしている内に、就職する頃には、持っていた三巻(全四巻)の内一巻しか、手元に残っていません。長い間残念に思っていました。それが、つい先日、本屋で再編集版を発見し、貧乏も省みず、これを逃したらもう二度と手に入らないと思い、買ってしまいました。興味のある方は(ない方も)是非一度読んでみてください。

私が「森林ボランティア」を知ったのは、今から五年くらい前です。新聞で浜田久美子さんが、「素人が指導を受けて、チェーンソーなどを使い、間伐を行なっている」という内容で書かれていたので、それを読んだ時、「私がいりたいのはこれだ!」と思いました。しかし、その文には浜田さんや所属するグループの連絡先が何書かれておらず、それっきりになっていました。

それから約三年後、農文協が「現代農業」という雑誌の増刊号で「ボランティア・コミュニティ」を出し、出版案内の「森林で活動するグループ」の部分を読み、即注文しました。が、本を手渡しすべく紛失してしまいました。そして今年、引越後の荷物を片付けていたときに、その本を見つけ、その中で紹介されていた浜田さんの著書

リレー通信

「森林ボランティア」

第一歩まで

木村 まり



「森をつくる人びと」を紹介して、KOA森林塾にたどり着きました。

ようやく私の「森林ボランティア」第一歩がこの十一月に刻まれました。

私はもともと、映画「下町の太陽」の舞台になった、東京の墨田区で生まれ育ちました。その映画は倍賞千恵子の扮する女工の物語で、近所の資生堂石鹸工場での口ケを幼児の私も見物しました。そんな大小の町工場は区内のあちこちにありました。家の回りには、祖父が植えた、スズカケ・アオギリ・マテバシイがへばりつくように生えていました。また、軒を接して家が建つ密集地帯でしたが、各家が古くなった火鉢や漬物樽などに、アオキやツツジなどを植えていました。それでも町全体としてはひどく緑が少なかったのです。木立がこんもりしているところを見つけると、側に行つて見たくなる、そんな「トラウマ」を私は

は今も引きずっています。学生時代には、山を身近に感じたくつてワンゲルに入つたのですが、団体行動が向かないのと、体力がなかったので落ちこぼれました。就職後、たまたま隣の課の人の「屋久島に行くけど、行かない？」の誘いに即OKし、屋久島に行きました。縄文杉に抱きついたり(今では側へも寄れません)宮之浦岳・永田岳に登ったり、ヤクジカ・ヤクザルと交信したり、最高の山行でした。その時は不思議と体力が充実していて、水汲みも嬉々として行ないました。もっとも水が豊かで、ウマイ所でしたが。嫌だったのはヒルに血を吸われたこと位で(その後一年以上かゆかったです)。

その後、沖縄の石垣島で新空港をサンゴの海に建設する計画を、反対する運動に参加しました。その関係もあり、山からは遠ざかっていました。その代わり、仲良くなつたオジイ(おじいさん)から、カチャァーの踊りを教えてもらったり、沖縄の食にはまったりして、すっかり「沖縄フラァー(フリースク)」になつてしまいました。石垣島では各部落ごとに、言葉や豊年祭・お盆行事の内

容がかなり違つていて「文化が均一化する前のヤマト(本土)もこんなだったのか」と感慨深いものがありました。また、部落のまとまりとは別(御嶽(ウタキ・土着の神事を行う場所)ごとの家の繋がりがありません)部落の繋がりと神事が日常生活の中で、今でも各世代に生きていくという印象でした。今は忙しくてご無沙汰してありますが、時間があれば、石垣島よりもっと先の波照間島に行きたい。ゆつたりとした時の流れに、身を任せたいので。

それから子供が生まれ、あまり身動きのとれない日々が過ぎました。少し子供が大きくなつて、低い山に登つたり、ハイキングするようになりました。すると、そのたびに密生した森を見ては「私に何かできないのかなあ」と思つていました。また、新聞やTVで、間伐されずに放置される山林が報道されるのを目にしても、その思いは日々強くなつていきました。その上、多少「市民運動」に参加した経験から、「支援」よりは自分も身体を動かして関わりたい、しかも山や森林とともにある事を自分したいのだ、と気づき始めてもいました。そんな折、新聞で浜田さんの文章に出会つたのでした。

「森林ボランティア」の第二步目は、来年のAコース参加と考えています。十一月のBコースに参加された方・スタッフの皆様方は、私の「来年のAコースにはきつと参加するゾ」に耳タコ状態だったでしょう。失礼しました。でも、保科校長、島崎先生の教えてくださった内容の深さは改めて書くまでもなく、優しいおじい様方でした(ゴメンナサイ、本当は父親の世代です)また、スタッフの皆さんは伊那の空のように澄んで晴やかでした。そして、参加者の方々も様々な話ができて、さりげなく手助けしてくださつたり、実に心地よかつた。皆さん、本当にありがとうございました。

今の時期になるとスーパーの一角は漬物コーナーに様変わり。ぬかや塩など山積みされた横に桶も並んでいます。漬物を食べない家に育つたせいかわれぬ漬物すらほとんど買わなかつたのですが、伊那へ来て製物の漬物が日常の生活の一部となつていく姿に、いつかは私もマイ漬物を食卓に並べられたらいいな、と漬物のいろはから始めなくてはならないのですが夢見ています。長野県の特産とずつと思つていたのが、伊那でも野沢菜は作られていて、今年みはらしの湯にも温泉を利用したお菜洗いの場ができました。そのせいか荷台に野沢菜を積んだ軽トラをよく見かけます。

新しい土地へ来て、食生活というものはその土地に住み着くための重要な要素であると強く感じています。漬物・干し柿・寒天・佃煮・梅干・きのこ・そば：伊那の味を自分で作るようになる姿を想います。



今年最後の森林塾も、ここまでの九ヶ月を象徴するかのような好天かつ穏やかな一日となりました。夜にはうつすらと雲がかかっていたものの、月齢5.8の月明かりの元に中央アルプスの白い嶺が浮かび上がり、昼間とは違った美しい眺めを見ることができました。十一月下旬の氷雨で一度は白くなった山も下旬に続いた小春日和ですっかり茶色に戻っていたのですが、再びの寒気到来でもう無くなりそうもないほどに雪がついて冬の装いでみなさんを迎えることができよつぱり鼻が高かつたことでしょうか。

今年最後の森林塾も、ここまでの九ヶ月を象徴するかのような好天かつ穏やかな一日となりました。夜にはうつすらと雲がかかっていたものの、月齢5.8の月明かりの元に中央アルプスの白い嶺が浮かび上がり、昼間とは違った美しい眺めを見ることができました。十一月下旬の氷雨で一度は白くなった山も下旬に続いた小春日和ですっかり茶色に戻っていたのですが、再びの寒気到来でもう無くなりそうもないほどに雪がついて冬の装いでみなさんを迎えることができよつぱり鼻が高かつたことでしょうか。

つづみずは食べることから...!! 【テッカマン】

おわりに

今様々なお酒やおつまみを差し入れてくれた方、作ってくれた方、ほんとにごちそうさまでした。そして、この一年ご指導頂いた先生方、イントラの方々、ありがとうございました。そして、この一年森林塾に参加して頂いた方々、ほんとにご苦労様でした。今年度はあと一回を残すだけになってしまいました。まだまだこれからという気がするのは私だけでしょうか。

Aコースの方、来年三月まで長い冬休みになりますが、健康には注意して頂いて、また、思い詰めたりしないで過ごして下さい。早春の伊那谷で会えるのを楽しみにしています。Bコースの方、OBの方、きつとまたどこかで会えることを願っています。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994

E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)
H.P.http://www.koanet.co.jp


